

第3学年 国語科学習指導案

指導者 谷口 美和子

1. 日時 平成26年10月15日(水) 第5校時
2. 場所 3年3組(男子16名 女子15名 計31名)
3. 単元名 場面の様子を想像して読む「モチモチの木」
4. 単元目標

- 場面の移り変わりに注意して、豆太やじさまの気持ちの変化を読もうとする(関心・意欲・態度)
- 内容の中心を明確にして、理由を挙げて書くことができる。(書くこと)
- 叙述を基に想像して読むことができる。(読むこと)
- 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読することができる。(読むこと)
- 登場人物について考えたことを話し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができる。(話すこと・聞くこと)

5. 指導にあたって

本学級の児童は、1学期に物語文として「消しゴムころりん」を学習し、その学習の中で叙述に基づき登場人物の気持ちの変化を読み取ってきた。教科書の文の中から大切に感じる場所に線を引き、自分なりに想像を膨らませ読み取ってきた。「書く」学習では、書こうと考えていることを簡条書きで書き出し、それをもとに詳しい内容の文に膨らませていった。「アゲハチョウの観察記」では、自分が観察した時の様子を思い起こし、意欲的にメモから文にして書くことができた。この「観察記」のように、実際に自分が体験したことは、詳しく書き表すことができる。しかし、物語文などの文を読み、自分なりに読み取ったことをまとめて書くとなると抵抗があるのか、何を書いたらよいかわからないといって書くことが難しい児童もいる。一方、「話す・聞く」の学習では、意見を求めると活発に手を挙げて発表する児童が増えてきた。自分の意見を言うだけでなく、友だちの意見をしっかり聞いて、いろいろな考えがあることに気づけるように声をかけてきた。しかし、まだまだ自分の意見だけを伝え、相手の話を聞けない児童もいる。

この教材は、はっきりと場面分けがされていて、出来事もシンプルでとらえやすい。その中で、登場人物である豆太の言動がいきいきと描かれている。また、豆太の性格について、語り手が分かりやすく語っている。豆太は夜に一人でトイレにいけないほど臆病だ。見たくてたまらないモチモチの木の灯を見ることもあっさりあきらめてしまうほどである。そんな豆太に子どもたちも共感しながら読むことができると思われる。そして、豆太は大好きなじさまの苦しむ姿を見て、勇気を出して駆け出した。この勇気は、じさまへの限りない愛情から生まれたものだろう。人間は優しさがある限り、愛情で結ばれたもののために立ち上がる勇気を秘めている―最後の場面のじさまの言葉からも、人間の生き方について読むことができる。

指導にあたっては、朗読劇をするというめあてのもと、叙述に基づいて、豆太の様子や気持ちを読み取らせていきたい。そして、豆太の気持ちの変容を読み取るために心情曲線を学習の始めの段階で予想させ、「豆太はおくびょうかどうか」ということを学習の柱として読み進めていく。学習の

過程で、文への書き込みを通して一人読みを行い、それぞれが読み取ったことを三人組で意見を交流しあい、読みを深めていきたい。そして、深めた読みを活かし、場面にそって、声色や声の大きさ、読みの速さなどを工夫して音読ができるように指導していきたい。また、お互いの朗読を聞きあう活動を取り入れ、音読の質を高めていきたい。

6. 単元における評価規準

関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
<ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあてをもち、進んで学習に参加しようとしている。 ・登場人物の性格や気持ちについて読み取ろうとしている。 ・登場人物の様子や気持ちを考え、音読しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感想を自分で発表したり、友だちの感想を聞いたりしている。 ・意見交流の中で、自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初発の感想を自分の言葉で書いている。 ・言語及び文と文の関連から読み取れる登場人物の性格や気持ちを書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全文を声に出して読んでいる。 ・会話や行動に着目し、登場人物の性格や気持ちをとらえて読んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の意味をつかんでいる。 ・民話調の言葉の表現に気づく。 ・登場人物の気持ちが分かる表記の仕方に気づく。

7. 指導計画（全 12 時間）

- 第1次 全文を読み、初発の感想を書く。
感想を出し合い、学習のめあてをもつ。 (2 時間)
- 第2次 場面ごとに読み、登場人物の性格や気持ちについて読み取る。 (6 時間)
- ・1 場面 豆太とじさまの人柄 (1)
 - ・2 場面 豆太のモチモチの木に対する気持ち (1)
 - ・3 場面 モチモチの木に灯がともる話を聞いた豆太 (1)
 - ・4 場面前半 医者様を呼びに行く豆太 (1) 本時
 - ・4 場面後半 モチモチの木に灯がともっているのを見た豆太 (1)
 - ・5 場面 次の朝の豆太 (1)
- 第3次 豆太やじさまの様子がよく伝わるように自分たちの音読を創り出す。 (2 時間)
- 第4次 自分たちの考えた読みを朗読劇で伝える。 (2 時間)

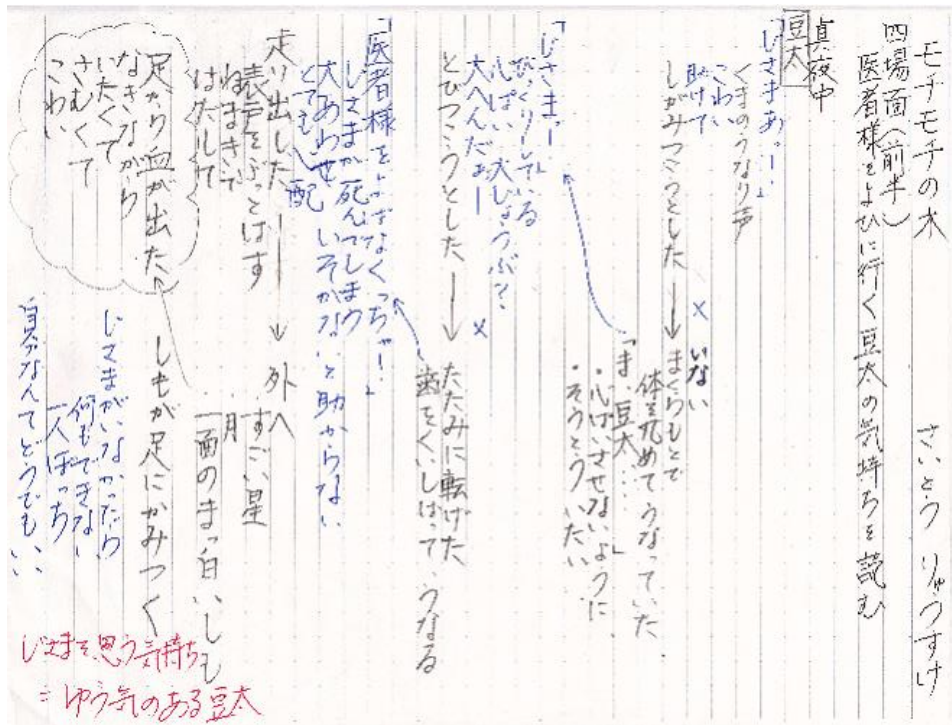
8. 本時の目標

- ・大好きなじさまの急病に驚き、医者様を呼びに行く豆太の気持ちを読む。

9. 本時の授業展開

学習内容	指導上の留意点	評価規準
1、本時の課題をつかむ。	・前時までの学習の中での豆太の様子について確認する。	
<p>医者様を呼びに行く豆太の気持ちを読もう。 (豆太は勇気があったか。おくびょうだったか。)</p>		
2、4場面前半(p.34 9行目～p.36 14行目)を音読する。 ・一人読み	・本時の学習場면을想像しながら音読させる。	・場面の様子が分かるように音読している。
3、医者様を呼びに走るまでの豆太の気持ちの変化を読む。 ・役割読み(～p.36 2行目) ・3人組で話し合う。 ・クラスで交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・豆太とじさまの会話文に着目させる。 ・「じさまあっ!」「じさまっ!」「医者様をよばなくっちゃ!」の言葉を言った時の状況を読み取らせる。 ・動作化を入れて、異変が起きたじさまとそれに驚く豆太の様子を読み取らせる。 	
4、峠を走っていく豆太の様子から気持ちを読む。 ・3人組で話し合う。 ・クラスで交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・豆太の様子がわかる言葉に着目させ、豆太の気持ちを読み取らせる。 ・叙述に基づいて話し合いが進められるように、3人組での話し合いでの話型を確認する。 ・自分の読みと比較しながら友だちの意見を聞くように声をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豆太の様子のわかる言葉から、豆太の気持ちを読み取っている。
5、本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの意見を聞き、考えが変わったことや考えが深まったことなどを、「今日の豆太」として、ワークシートに書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交流の中で、自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりしている。 ・本時の学習から、豆太の心情を読み、ワークシートに書いている。

10 板書計画



11 授業の視点

○考えを深め合える手段として、トリプルの話し合いの形は、有効であったか。

12 成果と課題

【成果】

- ・「モチモチの木」の前の単元「忘れられないおくりもの」から、一人読み的手段として書き込みに取り組んだ。それぞれの場面において、読みを深め、自分の考えを持って全体の学習に活かすことができた。
- ・毎時間学習の振り返りとして「今日の豆太」を書かせた。豆太に視線を当てることで、視点が明確になり、振り返りがしやすかった。
- ・班の形をトリプルにすることで、意見を聞いたり話したりする対象に焦点が合わせやすくなり、意見交流の方向をすっきりさせることができた。
- ・班の意見として代表が発表する上でも、トリプルは全員の意見を反映させやすく、意見がまとめやすかった。

【課題】

- ・班と班の意見交流では、自分の班の意見を調整するのが精一杯で、ほかの班の意見を聞く余裕はなかったと思われた。
- ・教師の求めたテーマに向けて、話し合いを活性化させることはできたが、班と班の意見を向き合わせたり、擦り合わせたりすることは、相当難しいように思われた。

